

## 赤い風船

三 春

赤い風船に手を伸ばす少女を描いたバンクシー作品が一億五千万円で落札された直後にシュレッダーにかけられたというニュースが世界中を驚かせたのは二〇一八年のことだった。

彼は少女と風船をテーマにした作品を幾つも描いている。風船が意味するものは憧れや愛、希望、そして時には平和（たまには偵察!?) であるように感じられる。

イスラエルとパレスチナを隔てる高い高い塀に描かれたのは、たくさん風船をつかんで今にも壁を超えそうに浮かびあがる少女の姿だ。

ウクライナ戦争では風船こそ登場しないが、プーチンに似た柔道着姿の大男を投げ飛ばしている子供など、バンクシー作と思われるメッセージ性の高いスプレーアートが発見されている。

ところで皆さんは『赤い風船』という古いフランス映画をご存じだろうか。私が小学校の講堂にベタ座りで観た生れて初めての洋画だ。

ある朝、登校途中のパスカル少年は、街灯に引っかかっている赤い風船を見つけた。彼はそれを持ってバスに乗ろうとするが、乗務員に断られたので、仕方なく走って学校へ向かい、下校時間まで門番に風船を預かってもらう。

放課後、風船を手に下校する途中で雨が降ってくる。傘を持った人を見つけたと、自分ではなく風船を傘に入れてもらったので、パスカルはずぶ濡れになった。その姿を見るなり母親は叱りつけ、風船を取り上げて空に放ってしまう。

しかし風船は飛んでいかず、まるで意思があるかのように彼の部屋の窓辺に留まる。それ以来、風船はいつも彼の後をついてくるようになった。

そんなある日、彼と風船の仲を妬んだ子供達が風船に石を投げつけ、とうとう風船は萎んでしまう。すると、落ち込む彼の元へパリ中の風船が集まってきた。

街中の風船を手にしたパスカルは天高く舞い上がり、青空の向こうへと飛び立たった。

ほんの三〇分ほどの短編が一九五六年のアカデミー賞とカンヌ国際映画祭の両方で受賞した。

たかが風船、されど風船。風船だけに、託されるものは昔も今も膨らむばかり？